

# 所管事務調査報告書

## 道路維持管理等について



大住ヶ丘から桃園小学校に至る三差路付近

平成 30 年 12 月  
建設経済常任委員会

## 1 調査の事件名

道路維持管理等について

## 2 調査の目的

道路の維持管理状況を調査し、より安心安全な道路環境の充実に資する施策を提言するため

## 3 調査の結果

### (1) 本市建設部施設管理課への事務調査による道路維持管理について 現状と道路舗装修繕計画報告

- ①「京田辺市道路舗装修繕計画」の平成29年度事業
- ②「京田辺市長寿命化修繕計画」

### (2) 北海道小樽市管外視察調査

小樽市では、冬季の累積雪量が5～6mになり、冬季の除雪対策に多額の経費を要している。更に車のチェーン装具での走行で道路劣化が激しく、道路修繕にも多額の経費を要しているのが現状。

平成28年12月に「小樽市公共施設等総合管理計画」を策定し、そ



の中で道路、ロードヒーティング（232箇所、約14km）、橋梁（135本）をインフラ施設とし、「小樽市公共施設等総合管理計画」を「小樽市道路ストック修繕計画」「小樽市橋梁長寿命化修繕計画」の上位計画として位置付けている。

市道の総延長は580kmであるが、幹線道路を抽出し市道の約1割に当たる57.7kmを計画の対象路線とし、トンネル5本、舗装57.7km、道路照明施設、大型道路標識鋼鉄大型視線誘導標、横断歩道橋、擁壁を対象施設としている。今後10年間で対象施設の修繕更新予定としている。

修繕更新計画の策定手順としては、点検結果を基に道路利用者への影響を及ぼす可能性の高さや路線の重要度などを考慮して優先順位を決めると

ともに、費用の平準化も念頭に置き、計画的な修繕工事を実施。

市の総予算の中で、道路などインフラ修繕・補修に占める予算は11億円であり、全体に占める割合は約2%とのことである。

道路修繕・補修など市民からの要望は、電話、手紙、ホームページからの投稿のほか、庁舎の投書箱を設置し受けている。これら市民からの要望、苦情を受け、処理件数は年間3,000件。

道路ストック修繕更新計画の策定及び実施により、対象路線の修繕は事後保全対応から計画的に修繕を実施し被害を未然に防ぐことを目的とした予防保全対応に移行したため、ライフサイクルコストは縮減となるが、単年度ごとの事業費は従前よりも増加することとなり予算の確保が課題となっているとのことである。

視察調査を終え、冬季積雪地域のため、ロードヒーティングや除雪対策、大型車両のスリップ防止のチェーン装具走行による道路劣化に相当の予算がかかることに苦慮されていることが小樽市にとってはマイナス要素であり、今後の課題であると感じた。

そのために、事後保全対応から予防保全対応としてのストック修繕計画に取り組まれている。

### (3) 委員会事務調査 委員間討議

○小樽市への管外視察を踏まえ、本市の道路の現状、現地調査に行くことが第一だ。現状を知ることが先ではないか。

○山手幹線、府道八幡木津線など幹線道路は道路のくぼみ・亀裂などにより、道路に面した家に住まわれている市民から家の振動が激しいと聞いている。

○松井ヶ丘の準幹線道路のハンプは車が通るたびに、家が揺れる。

○竜王谷橋から桃園小学校へ向かう道路も大型トレーラーの通行での振動が激しい。

○八幡木津線の307号から同志社前駅までの通学路が傷んでいる。自転車通学の子どもにとって危険である。

○委員皆さんから危険な道路、凸凹道路をピックアップして、現地調査してはどうか。



#### (4) 道路維持管理について市内道路の現地調査

委員から抽出された15箇所の道路について現地調査を実施

- ① 山手幹線の尼ヶ池交差点手前の点滅信号
- ② 竜王谷橋 ～ 桃園小学校に至る道路
- ③ 大住責谷 日光苑住宅地内道路
- ④ 大住ヶ丘 ～ 桃園小学校に至る三差路付近
- ⑤ 大住ヶ丘三丁目 スーパーナカガワ横
- ⑥ 大住ヶ丘二丁目 バス停付近
- ⑦ 松井ヶ丘一丁目 ハンプ
- ⑧ 松井里ヶ市 府道交野久御山線
- ⑨ 新田辺駅前西側 駅前ロータリー歩道部分



- ⑩ 田辺記念病院 ～ 富野荘3号踏切周辺 田辺平田線
- ⑪ 河原北口 ユニライフ、シャルマンコーポ前の道路
- ⑫ 東西神屋 国道307号 東バス停から北へ
- ⑬ 草内禅定寺 国道307号 草内口バス停から北へ

- ⑭ 草内五反田・東古森 国道307号の信号から北へ
- ⑮ 八幡木津線 JR同志社前駅からコーナンまで

#### (5) 委員会事務調査 委員間討議

○40年、50年たったアスファルトが市内にはかなりある。劣化が進んでいる。

○昨年(平成29年)末に15箇所の現地調査に行った道路、新年度の予算化はかなり難しいと言われている。

○山手幹線全線開通後の車の流れで、準幹線と言われる道路がどう変わっていくかによっても、道路の傷みも変わってくると思う。

○平成29年に区・自治会からどのくらい要望が出てきて、どのくらい改



修できたのか、担当課に確認すべきでは。



○小樽市への管外視察で、事後保全対応と予防保全対応とあるけれど、計画的に何年経過すれば劣化し、修繕が必要として、事前にストック修繕計画に本市も取り組んでほしい。

#### (6) 委員会事務調査 施設管理課と質疑

- ① 市は、「橋梁の長寿命化修繕事業」と「道路舗装修繕事業」を実施している。

道路舗装修繕事業の平成30年度においては、幹線、準幹線市道の17路線を対象に優先順位を決め、実施している。

28年度から行っている新田辺駅前線に続いて、山手幹線の修繕工事に入っていく。

そのほか、区・自治会から要望を受けている道路について、全箇所での現地確認のうえ、市内全体のバランスを考えながら、修繕が必要な箇所について工事実施している。

緊急の修繕が必要な箇所については、職員によるパトロール、市民からの要請に対応して工事を実施している。

- ② 平成29年度に委員会で現地調査を実施した道路について、担当課も現地で確認をされている。委員会として要望をしているので、財政的に厳しいことは承知しているが、優先順位を決め、実施を求める。
- ③ 山手幹線の舗装修繕工事について、近年大型車両の通行が急激に増えて、状態が急激に悪くなっている。職員による全線パトロール確認を実施。修繕を要する箇所をピックアップした。すべて修繕するのは難しい。目安として舗装が亀の子状にひび割れしている箇所の修繕工事を進めている。

## 4. 総括

建設経済常任委員会の所管事務調査として、「道路維持管理等について」をテーマとして、担当課による事業報告をうけての質疑、先進自治体への管外視察調査、市内道路の現地調査の実施及び委員間討議を通じて、次の4点をとりまとめた。

(1) 委員会として、市内道路15箇所の現地調査を行い、以下の優先順位を決めて修繕を求める。



- ①近鉄新田辺駅前等のインターロッキング舗装道路の修繕  
(高齢者・障がい者・妊婦など安全通行を優先にした修繕)
- ②山手幹線や木津八幡線などの幹線道路、準幹線道路の修繕
- ③生活道路や住宅地内の道路 特に通学路などの修繕

(2) 緊急に安全対策上の措置をとる必要があると判断される道路については、予算に関係なく予備費などの対応で速やかな改修・修繕を求める。



(3) 公共施設・道路などインフラの修繕計画・長寿命化計画に則り、事後保全対応ではなく予防保全対応で計画的に優先順位を決め道路舗装修繕を図ること。



(4) 道路補修、修繕とは別だが、京田辺市内を通る京奈和自動車道など暫定2車線区間の高速道路にあつては、安全のためセンターライン部分にワイヤーロープの保護柵の設置を要望すること。

以上、市民の意見に耳を傾け、建設経済常任委員会として、「道路維持管理等について」市への提言とする。

## 5. 調査の経過

### (1) 委員会等開催日

平成29年	5月29日	協議会	調査事項の協議
平成29年	6月19日	協議会	活動方針、活動内容及び調査方法等の協議

平成29年	9月14日	委員会	建設部施設管理課への事務調査
平成29年	12月12日	委員会	委員間討議
平成29年	12月26日	管内視察	市内道路（15箇所）現地調査
平成30年	3月9日	委員会	市内道路の現地調査をうけ委員間討議
平成30年	6月19日	委員会	施設管理課への事務調査
平成30年	12月17日	委員会	委員会所管事務調査報告書のまとめ

## (2) 派遣

平成29年	8月8日		北海道小樽市へ調査のため管外視察研修
-------	------	--	--------------------